

会員からのメッセージ

社会人枠の課程博士を取得して



黒柳 信之
(2021 博 理工学研究科)

本年度の学位記授与式はコロナ禍により挙行されるのだろうかかと心配いたしました。3月22日、前田学長をはじめとした諸先生方、芝井理事長など学校法人の方々、また、ご来賓の皆様のご列席を賜り、開催して頂くことができました。例年の授与式よりかなり簡素化されたとのことですが、出席授与者全員が一人一人壇上に上がり、前田学長より学位記を直接手渡して頂きました。自分の名前が呼ばれ、壇上に上がる時にはいよいよこの時が来た感慨無量でした。それは、私は関西大学ではなく某地方の大学院の出身ですが、修士課程を修了した時、いずれチャンスがあれば博士も取りたいという想いをずっと持ち続けていたからです。しかし、社会人枠で博士課程を受験するチャンスが来た時は、既に62才になろうという時で、自分の年齢や仕事と研究が両立するのかなど、色々迷いました。結局、その想いは捨てきれなく入学試験を受けることにした次第です。

私は長年住宅メーカーにおいて基礎・地盤に関する研究・技術開発に携わってまいりました。そこで、入学後は建築基礎工学研究室の伊藤淳志先生のご指導の元で、住宅に特化した杭基礎の研究に取り組むこととなりました。しかし、入学後間もなくして熊本地震が起り、また、その後の毎年起きる集中豪雨などの住宅損壊対応のために時間を割くことが度々あり、ジレンマを感じる連続でした。そのうえ、論文作成のため有限要素法や画像相関法による解析技術を、新たに“年甲斐もなく”習得しなければなりません(意外とやれば出来るものです)。最終的には5年半かかってしまいましたが、この間、先生の根気よく熱心なご

指導により、一つ一つ課題を解決し乗り越えることができました。この博士号が取得できたのも先生や研究に協力して頂いた方々のおかげだと深く感謝しています。今後は、社会貢献の方法を探っていきたいです。

関西大学での5年半は多くのことを経験しました。4年生と一緒に卒論の実験をし、食事や飲み会にも行ったりしました。若い連中と付き合っていると自分も若くなったような気がし、活力が湧いてきました。また、会社での研究は実験、解析、そしてその結果から最も経済的で利益を生み出すためのものです。しかし、大学院での研究は実験、解析、まで同じとしても、その先は理論の構築とその検証というように、真実の追求だと思います。おそらく、社会人枠で博士課程に進まれた方は私と同様に戸惑いを感じられるでしょう。この「真実の追求」ということを是非忘れないでください。

私は、人はいつまでも挑戦する気持を持ち続けることが大切だと思っています。私が若い時に抱いた「博士号を取る」という想いのようにいつかは必ず実現できます。博士号取得への挑戦をしようとする方々にエールを送りたいと思っています。

本学での学びを終えて



伊藤 孝太
(2021 修 理工学研究科)

本学大学院での学びを通して、自身の成長の機会となった研究活動および実験・実習等を支援するTA(ティーチングアシスタント)の活動について述べたいと思います。

研究活動では、社会の第一線で活躍されている先輩方をはじめ、異なる研究課題に取り組む学友たち、そして、価値観や文化の異なる留学生との多くの出会いがありました。私は人々の生活、産業を支える電気機